

第 3 回  
江東区こども・子育て会議  
会 議 録

平成 30 年 8 月 16 日

# 平成30年度第3回江東区こども・子育て会議

日時:平成30年8月16日(木)午後2時00分～4時15分  
会場:江東区防災センター 4階 災害対策本部室

## ○次 第

1. 開会
2. 議題1 江東区子育て世帯生活実態調査(案)について
3. 議題2 江東区こども・子育て支援事業計画の策定に伴う区民意向調査(案)について
4. 議題3 平成31年度江東区こども・子育て支援事業計画の取組予定について
5. その他
6. 閉会

## ○会議資料

- 資料1 江東区子育て世帯生活実態調査修正一覧  
資料2 江東区子育て世帯生活実態調査(関係機関・団体ヒアリング)  
資料3 江東区こども・子育て支援事業計画の策定に伴う区民意向調査(就学前児童用)  
資料4 江東区こども・子育て支援事業計画の策定に伴う区民意向調査(小学生用)  
資料5 江東区こども・子育て支援事業計画の策定に伴う区民意向調査(中高生世代用)  
資料6 平成31年度江東区こども・子育て支援事業計画の取組予定について  
参考(席上配付) 区民意向調査 調査票 前回調査からの大きな変更点

○出席者(敬称略)

○委員

氏名	所属団体
榎田 二三子	学識経験者 武蔵野大学教授
藤巻 真由美	学識経験者 なでしこ保育園長
小川 良子	福祉関係者 江東区公私立保育園長会 (アゼリヤ保育園長)
塩崎 雅子	福祉関係者 グレース保育園長 (認可保育所移行経験事業者)
田浦 秀一	福祉関係者 株式会社グローバルキッズ取締役
杉山 恵美子	福祉関係者 株式会社ルーチェ取締役 (認可保育所移行経験事業者)
大浦 俊哉	福祉関係者 東京都江東児童相談所長
佐藤 貴子	福祉関係者 南砂子ども家庭支援センター長
秋山 三郎	福祉関係者 NPO 法人東京養育家庭の会川の手支部
田村 満子	福祉関係者 こどもの発達療育研究所理事長
石塚 真姫子	保健関係者 東京都助産師会江東地区分会
渡部 佳代子	教育関係者 区立幼稚園長会代表者
伊藤 真成	教育関係者 私立幼稚園協会代表者
諏訪 美樹	公募委員
平間 唯佳	公募委員

○出席区職員

役職名	氏名	備考
こども未来部長	伊 東 直 樹	
青少年課長	小 林 愛	
障害者支援課長	内 藤 貴 子	
保護第一課自立支援担当係長	佐 藤 康 一	保護第一課長代理出席
保護第二課長	篠 碕 修	
保健予防課長	尾 本 光 祥	
子育て支援課長	堀 田 誠	
保育計画課長	加 藤 章 子	
保育課長	西 谷 淳	
学務課長	油 井 教 子	
指導室長	伊 藤 秀 一	
放課後支援課長	池 田 良 計	

○コンサルタント

氏名	社名
國分 俊憲	株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所

○欠席者(敬称略)

○委員

氏名	所属団体
丸山 哲	福祉関係者 社会福祉法人そのえだ理事長 (江東区潮見保育園長)
北島 千絵	地域活動関係者 民生・児童委員

<傍聴者>

なし

## 【会議録】

○堀田子育て支援課長 開会に先立ち、事務局から事務連絡をさせていただきます。

本日、丸山委員、北島委員から、所用のため欠席のご連絡をいただいています。また、保護第一課長は公務により、代理として自立支援担当係長が出席しております。

続いて、資料の確認をさせていただきます。配付資料は資料1～6、A4の1枚もので右上に「参考」と書かれたものを、机上にお配りしております。以上7種類ございます。また、資料とは別に、「江東区こども・子育て支援事業計画」と昨年度作った改定版を置かせていただいております。資料等は全てそろっていますでしょうか。なお、支援事業計画については、会議終了後、机上に置いてお帰りいただきますようお願いいたします。

本日の会議記録のために、写真撮影と録音をさせていただきますので、ご了承くださいます。また、議事録には委員のお名前と発言内容が公開されます。議事録作成のため、発言の際にはお名前をおっしゃっていただきますよう、ご協力をお願いします。

○榎田会長 ただ今より、平成30年度第3回江東区こども・子育て会議を開催します。委員の皆様には、お忙しい中、またお暑い中、誠にありがとうございます。本日の会議は、お手元の会議次第に沿って進めます。質問等は項目ごとにお受けしますが、会議の最後にも全体を通して質問をお受けしますので、よろしく願いいたします。

それでは、議題に入ります。議題1「江東区子育て世帯生活実態調査（案）」について、事務局より説明をお願いします。

○堀田子育て支援課長 はじめに、第2回会議でお諮りしました「江東区子育て世帯生活実態調査（案）」の小学生向け、中学生向け、保護者向け、及び児童育成手当受給者向けの調査票について、会議の席にて多数のご意見を頂戴しました。そのご意見を踏まえて一部修正をしましたので、資料1に沿って説明いたします。この表の見方ですが、一番左の列は前回会議でお示した当初案です。中央の列が今回の修正点で、赤字の部分が修正箇所です。一番右は修正の理由です。

1 ページ目、小学生向けの調査票です。まず、問1について、前回の会議で「性別の質問については配慮が必要。」という指摘を頂いたことから、事務局で検討した結果、生活実態調査については性別がなくても分析に特段の影響は与えないということで、性別の設問は削除しました。問14について、「介護」という文言を「お世話」という平たい表現に変えました。問16について、「お父さまやお母さま」を、「お父さんやお母さん」という通常の言葉に修正しました。

2 ページ目、中学生向けの調査票です。小学生向け調査票と同様に、問1の性別の設問を削除し、問14の「介護」を「お世話」に、問16の「お父さまやお母さま」を「お父さんやお母さん」に修正しました。

3 ページ目、保護者向けの調査票です。問10について、当初は「1 会社役員」、「2 民間企業の正社員」という選択肢の順番でしたが、正社員のほうが多いということで、順番を変えました。問10-1、10-3について、ここは勤務時間や勤務状況を尋ねる質問ですが、児童育成手当受給者の調査票にも同様の質問があり、そこでは右の修正案のような表になっています。その形のほうが分かりやすいということで、この表に差し替えました。

4 ページ目の問11-1～11-3は、父親に対する同様の設問なので、同様の修正となります。問21について、当初の設問では「配偶者」と明記していましたが、事務局の判断で、必ずしも配偶者ではなく事実婚のパートナー等も含まれるだろうということで、「配偶者（パートナー）」と修正しました。

5 ページ目、こどもの日常的な状況の項目の中で、食生活の詳しい状況についても調査するべきではないか、ということで、新たに問24「日常生活の中での外食や中食の状況について」と問25「食事を作るにあたって、ふだん気を付けていることについて」の質問を加えました。これらは新しい質問ですので、ぜひご意見を頂きたいと思います。

6 ページ目、問24の緊急事態の時に頼れる友人や親族がいるか、という設問ですが、

「遠くにいても仕方がないので、自分の身近な所にいるということを明確にしたほうが良い。」というご指摘を頂いたことから、「身近に」という文言を追記しました。問34 選択肢の「経済的理由で持っていないものがあるか」という設問について、こちらは単に経済的な理由だけではなく、その家庭の方針として持たない場合もあるので、「方針として所有していないものは除く」と明記しました。問44について、当初は「お子さん」という表現でしたが、今回の調査票では「お子さん」は封筒の宛名に書いてあるお子さんのみを指すので、他のお子さんも含めるという意味で「こども」という表現に変えました。また、事務局の判断で、選択肢の「(元)配偶者(またはパートナー)」を、より分かりやすく「配偶者(または元配偶者・パートナー)」に改めました。

7ページ目、児童育成手当受給者向け調査票です。まず、問1ですが、先ほどと同様に、性別の設問は削除しました。問11、当初は「会社役員」という選択肢がありましたが、育成手当受給の方の場合、会社役員の方は非常に少ないと思われるので、「会社役員」は選択肢から削除し、該当者については「その他の働き方をしている」を選んでもらうという形にしました。

8ページ目、問13「特別支援学校に通学している場合、どこに○を付けたらいいかがはっきりしない。」という指摘を頂いたことから、「特別支援学校に通学している場合は、小学校・中学校、高等学校のそれぞれ該当する番号に○を付けてください」と明記しました。問30、及び9ページの間31は、先ほどと同様、前回会議のご指摘を踏まえて、食事の内容についての質問を新たに加えたものです。

9ページ目、問25「配偶者が子育てに協力的でない」という選択肢がありましたが、これはひとり親世帯を対象にした設問であり、配偶者がいないのが前提なので、選択肢の3と4を削除しました。

10ページ目、問39について、当初の案は「離婚または未婚の方におうかがいします」でしたが、前回の会議で、「離婚または未婚に限定しないで、死別等も含めてひとり親の方全員に聞いたほうが良い。」というご指摘がありましたので、そのような形に修正しました。問41、先ほどと同様「(元)配偶者(またはパートナー)」を「元配偶者(または元パートナー)」に修正しました。問42について、当初の案では、「現在、あなたはどのようなことに悩んで、もしくは困っていますか」という質問でしたが、一番最後の自由記述にも、「現在困っていること、悩んでいることを自由に書いてください」とあり、重複するということと、ここまでの質問の中に、「ひとり親になった時にどのような問題を抱えていたか」という質問がなかったため、今後の支援策を考えるにあたって、ひとり親になった時の問題点を聞くほうが有効だろうと考え、問42は「ひとり親になったとき、あなたはどのようなことに悩んで、もしくは困っていましたか」という過去の質問に変え、現在の困ったことについては自由記述のところで書いてもらう形にしました。

○榎田会長 ただ今の説明について、ご質問・ご意見等はございませんか。

(意見なし)

○榎田会長 それでは、本日の資料をもって調査を実施することとします。

続いて、資料2「江東区子育て世帯生活実態調査(関係機関・団体ヒアリング)」について、事務局より説明をお願いします。

○堀田子育て支援課長 資料2をご覧ください。第1回のこども・子育て会議の時に、「実態調査は小学校5年生と中学校3年生を対象にしているため、乳幼児の貧困の状況についてより詳しく調べるために、関係機関・団体のヒアリングの内容を充実させたほうが良い。」という意見を頂きました。それも踏まえて、今回の関係機関・団体ヒアリングの様式を考えました。この関係機関・団体ヒアリングは、区内で活動している福祉関係、教育関係、保健関係、支援団体等の11機関に調査票を送り、内容を記載していただいて、その後、幾つかの団体にヒアリングでさらに詳しくお尋ねする形で考えています。参考までに、調査票の送付先は福祉関係では母子生活支援施設、子ども家庭支援センター、

保護一課、保護二課、主任児童委員、保育園の中から幾つかの機関を、教育関係ではスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの方から数名、保健関係では保健相談所、助産師会、支援団体では子ども食堂を運営している団体、まなび塾を委託している団体等を考えています。

2ページ目をご覧ください。「1 背景に貧困を伴うと考えられる支援案件についてお聞きします」です。ここでは個別の事例ではなく、これまでの支援を通じて総合して感じられる、今の子どもたちを取り巻く状況の全体像を書いていただきます。問1は、困難を抱える家庭で貧困以外にどのような背景や特徴があるか、という設問です。問2は、子どもの生活や学習面での特徴です。生活習慣の乱れ等、気付くところを書いていただこうと思っています。

3ページ目、問3は保護者との関係の特徴です。例えば顔をうかがうなど、虐待が疑われるような状況について書いていただこうと思っています。問4は、経済状況から子どもにどのような影響等が生じているかについて、学力や自己肯定感など、感じることを書いていただこうと思っています。

4ページ目、問5は保護者の生活面や就労面での特徴です。問6は、保護者と子どもとの関わりにおける特徴です。

5ページ目、「2 困難を抱える家庭に対する支援の状況・課題について」です。問7は、それぞれの機関で具体的にどのような支援をしているか。問8は、どのような支援機関につないでいるか。問9は、どのような制度を紹介・活用することが多いか、を聞いています。

6ページ目、問10は支援時に配慮している点です。問11は、支援が困難だった事例の有無について。問12は、他機関・団体等との連携における課題について。問13は、支援活動を行っていく上での課題です。

7ページ目、問14は、今後区が貧困問題に取り組むにあたって必要な支援や制度について書いていただきます。

これらにご記入いただいた上で、幾つかの機関・団体をピックアップして、直接話を伺い、その結果と個人に送るアンケート調査の結果を合わせて、実態調査としたいと思っています。

○榎田会長 今の件について、ご質問、ご意見はございませんか。

○諏訪委員 こちらは都の調査とは別の、区独自の調査なのですか。

○堀田子育て支援課長 そのとおりです。

○諏訪委員 「11の機関にヒアリングをする。」という説明がありましたが、子ども食堂や保健所など、地域にある団体に関しては全部を対象に実施したほうが、この地域はこの部分が足りないというふうに、それぞれの地域の状況が分かるのではないのでしょうか。それを基に、今後の子育て支援につなげていくといいのではないかと思います。

○堀田子育て支援課長 ヒアリングの対象団体については、保健相談所は区内に4カ所あるのですが、その全てに聞く予定です。その他の団体については、区内を深川北部・南部、城東北部・南部という4つの地域に分割して、区内から満遍なく採る形で考えています。例えば、スクールカウンセラーは全校にいますが、4地区から1校ずつ選んで聞く予定です。

○佐藤委員 南砂子ども家庭支援センターもこれを書くことになるだろうと思うのですが、自由記述が多く、書く人はどう答えるか迷うだろうと思いました。

次に、表記について「子ども」となっているところと「子ども」のところがあるので、統一したほうが良いと思いました。

最後に、2ページに「子ども・若者や保護者の状況について」とあるのですが、「子ども」と「若者」の違いがよく分かりません。若者というのは何歳のことですか。

- ジャパン総研** 2点目の、「こども」と「子ども」の表記については統一させていただきます。3点目の「子ども」と「若者」については、次の計画はこどもの総合的な計画にするということもあり、18歳以下のこどもだけではなく、高校を出た後にも貧困の影響があるのかといった点も含めてお伺いしたいということで、「若者」という文言を入れていきます。
- 佐藤委員** ワーカーたちがこれを書く時に、その辺に疑問を持つのではないかと思うのですが、年齢の定義等は特にはないということですか。
- ジャパン総研** 今のところ、具体的な定義は明確にしていません。もう少しイメージしやすい表現に修正したいと思います。
- 秋山委員** 次世代計画の中では、引きこもりや貧困等の問題のところでは35歳でも対象となっています。そういうこともあるので、単に「若者」では非常に曖昧です。また、今言われたように、これを書く身になって考えると、こういう自由記述方式ではなく、もう少し絞ってあげないと、書く人も困ると思うし、答えが非常に幅広くなってしまって、收拾がつかなくなるのではないかと心配します。
- 堀田子育て支援課長** ご意見を踏まえて、回答する方が困らないよう表紙に対象年齢について記載したいと思います。なお、事務局としては、20歳くらいまでを対象イメージしています。
- 榎田会長** 「もう少し絞ってはどうか」というご意見がありました。その点についてご意見はありませんか。
- 秋山委員** 大きな機関が、これまで経験した貧困に基づくことを書くとなると、事例全てを書くのは無理であって、どの問題について答えるのか悩むだろうと思います。例えば、保健所や子ども家庭センターについては未就学児、スクールカウンセラーであれば小学校もしくは中学校、児童館については小学生から中学生というように、もう少し絞ってあげないと、回答する側がかわいそうだと思います。逆に言うと、質問の焦点が絞られていないために、ぼやとした形の一般的なことしか出てこない、という結果になってしまう恐れがあります。全部にヒアリングをするのであれば、これでも構いませんが、この書面だけだとますます問題が拡散してしまうように思います。
- ジャパン総研** 質問を絞るということではなく、対象を明確にした上で回答を頂くようにするということですか。
- 秋山委員** そこをどのようにするかは、私も明確な回答を持っているわけではありません。ただ、このまま関係機関に出して「書いてください。」と言われても、困るのではないかと思うのです。事務局と相談して、問題自体を絞るとか、対象を絞るとか、もう少し知恵を絞ったほうが良いと思いました。
- 大浦委員** 例えば、問1に「保護者がひとり親、外国籍、保護者に被暴力の経験がある、保護者に障害がある」という例が書かれていますが、私どもが対応している保護者は全部該当します。問2の「食事回数が少ない、生活習慣の乱れ、身なり、不登校、居場所がない」も、全てに該当するこどもがいます。そういう場合、自由記述では何を視点にするのかを迷われると思います。例えば、例に挙げられているような項目はチェック方式にして、その他の大きな特徴を記述式にするなど、少し工夫していただければと思います。
- 堀田子育て支援課長** 今頂いた意見を基に、もう一度考えて、皆さんにお示ししたいと思います。次回の会議は12月なので、個別にご意見を伺います。

○**諏訪委員** 表紙に「メールにて返信」と書かれています。メールではチェック方式は難しいと思うので、返信方法も併せて考えられたほうがいいかもしれません。

○**榎田会長** 添付にすればチェック方式も可能だと思います。

他にご意見等はありませんか。なければ、今頂いた、対象、チェックと記述にするといったご意見等について検討をしていただくよう、よろしくをお願いします。

続いて、議題2「江東区こども・子育て支援事業計画の策定に伴う区民意向調査（案）について」に進ませていただきます。第1回の会議でお諮りした「平成30年度江東区こども・子育て支援事業計画策定に向けた区民意向調査実施概要について」に基づいて、事務局で区民意向調査（案）を作成しました。就学前児童用、小学生用、中高生世代用の3つがありますので、それぞれについて事務局から説明をお願いします。

○**堀田子育て支援課長** 今回の区民意向調査の設問は、5年前に行った調査の設問をかなり引用していますが、前回から大きく変更した点が幾つかありますので、まずその説明をさせていただきます。

右上に「参考」と書いてあるA4の紙の1ページをご覧ください。就学前児童用では、まず大きな1点目、これまでのこども・子育て会議での皆様からの意見を踏まえて質問を追加しています。1つ目は、こどもの基本的な日常生活の状況に関する質問で、基本的な生活習慣とか食生活、親子の関わりの実態といったものを追加しました。2つ目は、出産後の再就職支援のニーズに関する質問です。「特に母親の再就職支援に目を向けてほしい。」というご意見を頂いたので、それに関連する質問を追加しました。3つ目は、「地域のつながりが重要。」というご指摘を頂きましたので、地域のつながりの状況に関する現状把握の質問を追加しました。大きな2点目、今後の事業のあり方を考えるために、現状の事業の不满や今後の希望について、具体的な内容が分かるような質問を加えました。大きな3点目、ニーズ量については業務統計で入手できるデータがありますので、そこは改めて聞くことはせず、業務統計データに出てこない、例えば、一時保育やファミリー・サポートを利用したかったけれども、定員がいっぱいで利用できなかったといった、潜在的なニーズが分かるような質問を作りました。大きな4点目、来年作るこの計画には以前の次世代育成支援行動計画の内容を盛り込みます。それを踏まえて、仕事と育児の両立、ワーク・ライフ・バランスといった観点の質問を加えました。大きな5点目、児童虐待関係で大きな問題になっている「しつけと体罰の問題」について、保護者の認識を調べたいと考え、追加しました。大きな変更点は以上です。

それでは、資料3の説明に入らせていただきます。就学前児童用の調査票です。前回の調査の時は全部で58問でした。今回は66問と、前回よりも8問増えています。この調査票を、無作為で抽出した3,000人の就学前児童がいる保護者に向けて、郵送で送付・回収します。前回の調査の時には、回収率は61%でした。今回も同様の回収率になるのではないかと考えています。

2ページ目をご覧ください。大きな1番目の項目は、宛名のお子さんや家族の状況です。問1はお子さんの生年月と兄弟姉妹の状況です。問2は、お住まいの地区です。問3は、回答されている方がどなたなのか、を聞いています。問4は、同居している家族の状況です。これにより、世帯が、例えばひとり親世帯なのかどうかといったことが分かります。問5は、子育てをしている方は主にどなたか、という質問です。

3ページ目、問6は保護者の就労状況について、このページでは母親に関する事を細かく聞いています。なお、現在、国がこの事業計画を策定するための手引きを作っており、8月中旬をめどに市町村にその手引きを送るという通知があったのですが、今日現在、まだ届いておりません。その手引きの内容によって、今日お示ししている設問を大幅に修正することになったときには、事務局のほうで質問を修正し、また皆様にお諮りさせていただきます。

4ページ目、父親の就労の状況です。大きな2番は、宛名のお子さんの日常生活です。ここが、第1回目（こども・子育て会議）の時に頂いたご意見を基に追加した、こどもの基本的な生活習慣等についての設問になります。問7、8は、お子さんの就寝・起床時間です。問9は、朝ごはん、晩ごはんをどの程度作っているかです。



5ページ目、問10はふだん朝食や夕食をこどもが誰と食べているかです。1人で食べているといった実態を調査しようと思っています。問11、12は、外食や中食の状況と、お子さんの食事についてどのような点に気を付けているかという質問です。問13、14は、平日と休日にお子さんの相手をしている時間がどのくらいあるかについて、父親と母親それぞれに聞いています。前回の調査の時には、この質問は、平日の家事と育児の時間を聞いていましたが、今回は休日をプラスし、家事を削除して育児に特化しました。孤立した子育てが大きな問題になっているので、父親がどのくらい育児に参加しているかというところに絞って質問を組み立てています。

6ページ目、問15は宛名のお子さんによく一緒にすることです。未就学児のお子さんがいる家庭で、一般的にするであろうことを記載して、親子の関わりの実態を分析しようと思っています。大きな3番は、教育・保育事業の利用の現状です。問16は、定期的な教育・保育をしているかという質問です。問17は、していない場合の理由です。

7ページ目、問18は平日の教育・保育の現在の利用状況を聞く質問です。回答欄の表(2)に「希望」とありますが、現在使っている施設の利用日数や時間を変更したいかどうかを聞くことによって、今後のニーズ量の参考にします。問19は、教育・保育事業を利用している理由です。問20は、教育・保育事業を利用することを理由として区外から区内、もしくは区内から区外へ転居を考えたことがあるかどうかです。これは所管課からの追加希望で加えたのですが、保育園等への入園を理由に転居する人がどのくらいいるのかを把握しようと思っています。

8ページ目、問22は現在使っている教育・保育事業の満足度です。問22は、不満の具体的な理由です。今後の事業の改善の参考にしたいと思っています。

大きな4番は、病児・病後児保育についてです。問23は、病児・病後児保育のニーズの調査です。問24以降は、江東区が今行っている病児・病後児保育を知っているかどうか、を聞いています。

9ページ目、問25は病児・病後児保育を使っていない理由です。今後の病児・病後児保育事業のあり方の参考にしたいと思っています。問26は、お子さんが病気やけがをしたときに考える対応の優先順位です。前回調査の時は、病児・病後児保育の利用希望を聞いて、「できれば使いたい」という回答が44%ありました。ところが、実際に病児・病後児保育を使っている方は32%程度で、ほとんどの方は仕事を休んで対応しているのが実態です。そこで、今回は聞き方を変えて、現実的な対応も含めた選択肢にしました。その中の第1、第2優先を聞くことで一定のニーズは把握できると考えております。

10ページ目、大きな5番は、教育・保育事業の利用希望です。問27は、現在使っているかどうかにかかわらず、平日、定期的に使いたい教育・保育事業を聞いています。どんな施設をいつまでにどのくらい造る必要があるかという計算をする際の基礎的な調査となります。併せて、現在、国で検討を進めている「幼児教育無償化」が実現した場合、どのように考えるかを聞いています。無償化された場合には、かなり影響が出ると思われるので、ニーズ量の変化を把握したいと考えております。

11ページ目、問28は江東区以外の保育所を使いたいか、という質問です。保育所の広域利用についてのニーズを把握しようと思っています。問29は、幼稚園、保育園、認定こども園を選ぶ際に重視する点です。今後の施設整備の参考にしたいと思っています。問30は、0～2歳が利用する小規模保育等についての考えを聞く質問です。今後の小規模保育等のあり方の参考にしたいと思っています。大きな6番は、休日保育についてです。問31は、日曜・祝日の定期的な休日保育のニーズ量の調査です。問32は、たまに利用したい場合の理由です。

12ページ目、問33は、幼稚園を利用している方の、長期休暇期間中の利用希望の有無です。今後の事業のあり方の参考にしたいと思っています。

13ページ目、大きな7番は、一時預かり、ショートステイ、子育てひろば等の地域こども・子育て支援事業のニーズの調査です。問34は、私用、親の通院、不定期の就労などの目的で、不定期的に利用している事業があるかどうかです。現在使っている方の数は事業統計から正確に分かりますので、そこには出てこない、使いたいけれども使えなかったという数を把握することによって、潜在的なニーズ量の推計に使いたいと思っています。

14ページ目、問35は、ファミリー・サポートを使いたいけれど使えなかった方について、どのような目的で使いたかったかを聞いて、潜在的な利用目的を把握します。問36は、保護者の用事でお子さんを泊まりがけで家族以外の方に見てもらわなければいけない時に、預かってくれる人がいるかという質問です。前回の調査の時には、ショートステイの利用日数や、祖父母等の支援の状況の調査をしていました。しかし、ショートステイの利用日数は業務統計で把握できるし、ショートステイを使っているお子さんの9割が虐待の関係という実態があり、調査で得たニーズ量と実態が懸け離れていたため、設問の仕方を大幅に変えて、このような形にしました。問37は、子育てひろば関係の質問です。今回、新たにマイ保育園やかんがる一ひろばについても、認知の状況、利用状況、満足度、今後の利用意向、使いたくない理由を聞いています。特に利用したくない理由については、今後の事業の改善の参考にしたいと思っています。

15ページ目、大きな8番は、きッズクラブと学童の利用の希望です。問38は、小学校に上がった後の学童ときッズのニーズ調査です。前回は、放課後の過ごし方の希望として、自宅、祖父母宅、習い事といった質問をしていましたが、今回はきッズクラブ等のニーズ調査に特化して質問を作りました。問39は、学童、きッズクラブを使いたいと回答した方について、土曜、日曜・祝日、夏休みの利用の希望の調査です。大きな9番は、育児休業の状況です。問40は、育児休業の取得の状況です。

16ページ目、問41は子育て中に再就職するにあたっての必要な支援です。第1回のこども・子育て会議で、母親の再就職支援の必要性についてのご指摘がありましたので、このような設問を追加しました。問42は、育休取得後の職場復帰の状況です。問43は、育休から何歳の時に職場復帰したかについて、実際の時期と、本当はいつまで取りたかったかという調査です。問44は、希望どおりに復帰できなかった理由です。

17ページ目、大きな10番は、子育て環境全般についてです。問45は、こどもに関する施策の情報をどのような形で受け取っているか、今後どのような形で受け取りたいかを聞いて、今後の情報発信のあり方の参考にしたいと思っています。問46、47は、仕事と育児の両立やワーク・ライフ・バランスの関係の質問です。実態の把握をしたいと思っています。

18ページ目、問48はワーク・ライフ・バランスに関する質問です。問49は、配偶者の子育ての分担に満足しているかどうかです。問50は、子育てをどう感じているかです。問51は、子育てをする上で相談できる人等がいるかどうかです。問52は、子育てに関して不安感、負担感を感じているかどうかです。

19ページ目、問53は新たに追加した質問で、どのようなことに不安や負担感を感じているかです。これを把握することにより、今後の事業のあり方の参考にしたいと思っています。問54は、近所や地域の人とお付き合いの程度です。問55～57は、第1回目の会議の時に頂いた、「地域のつながりが大事だ。」というご指摘を踏まえて追加した質問です。問55は地域で支えられていると感じるか、問56はこどもが地域に見守られていると感じるか、問57は地域のネットワーク等のつながりが必要と思うか、を聞いています。

20ページ目、問58は遊ぶ環境についての満足度です。問59は、遊ぶ環境が不満な場合、どのような点が不満なのかを聞いて、今後の対策の参考にしたいと思っています。問60は、虐待相談窓口の認識状況です。問61は、しつけのための体罰についてどう考えるかです。問62は、体罰をしたことがあるかという質問です。問63は、子育てのいろいろなサービスについて、知っているか、使ったことがあるか、利用したくない理由を聞いています。こちらについても、今後利用したくないという理由を聞くことにより、今後の事業の参考にしたいと思っています。

21ページ目、問64は子育てしやすいまちと思うかという質問です。問65は新たに追加した設問で、子育てしやすいまちと思わない理由を具体的に書いていただきます。

22ページ目、問66は子育て支援関係の施策の希望です。選択した項目について、具体的にどのような支援が必要なのか、を書いていただき、今後の参考にしたいと思っています。

○榎田会長 就学前児童用の調査票について、ご質問・ご意見はありませんか。

- 平間委員** 問9の朝ごはん・晩ごはんというのは、手作りで用意しているものですか。それとも、例えばパンを買ってきて食べさせる場合も用意しているに含まれるのですか。
- 問15について、私は児童館や「みずべ」に出掛けることが多いのですが、選択肢がありません。そういう方は多いと思うので、項目としてあったほうが良いのではないかと思います。また、「習い事」も選択肢にあると、○を付ける方は多いと思います。
- 問33について、「利用する必要はない」「毎日利用したい」という選択肢がありますが、私の場合、現在既に長期休暇時でもほぼ毎日利用できています。そういう場合、どのように回答したらいいのでしょうか。
- 最後に、問37の子育て支援サービスについて、「利用したくない理由」という欄がありますが、利用したくないわけではなく、もう少しこうしてくれたら利用できるのに思うことがあります。例えば、児童館のおもちゃがなかなかリニューアルされず、子どもが飽きてしまっているのが、児童館同士で交換してくれれば、無駄な出費もなくいいのではないかと思います。そういうちょっとしたことを書く欄があるといいと思いました。
- 堀田子育て支援課長** 問9については、手作りかどうかは問わず、ご飯を用意していないときがあるかどうかを調べたいのが趣旨です。問15については、選択肢に児童館や「みずべ」、「習い事」等を入れるということですか。
- 平間委員** これは家の中でのことに限られているのですか。何を聞きたいのかがよく分かりません。
- ジャパン総研** 問15では、ふだん親とお子さんとのどのくらいコミュニケーションをとっているか、を把握したいと考えています。ご意見の公共施設で遊ぶというのは、今の段階では入っていないので、そういう表現を追加したいと思います。習い事については、それがコミュニケーションになっている場合もあるということですか。
- 平間委員** 一緒にプールに行っています。そういう方は結構いると思うのですが、「その他」に書くということですか。
- ジャパン総研** プールであれば、選択肢13「スポーツをする」で対応できるように思います。この設問の結果の使い方も含めて、どこまで選択肢に入れるか、もう少し検討させていただきたいと思います。
- 堀田子育て支援課長** 問33については、ご質問をもう一度教えていただけますか。
- 平間委員** 現在、夏休み中もお盆期間以外はほとんど一時預かりをしてくださっていて、ほぼ毎日8時から5時まで見てもらっています。そういう場合、「利用する必要はない」でも、「ほぼ毎日利用したい」にも当てはまらないので質問しました。
- 諏訪委員** 「利用されている方にうかがいます」となっているので、選択肢の1を「利用する必要はない（利用している）」というふうに書けばいいのではないのでしょうか。
- ジャパン総研** 選択肢の1を、「もう既に利用しているから必要ない」と、「それ以外で対応できているから必要ない」と分けて聞く方向で検討したいと思います。
- 榎田会長** 今後の希望ニーズを把握したいのであれば、今言われたようにすれば希望ニーズは分かりますね。
- ジャパン総研** この設問は、「利用希望」の選択肢の2と3に回答される方がどのくらいいるか、を伺いたいというのが主な趣旨です。問37については、(5)の「利用したくない理由」を、こうなれば使いたいというような、もう少し前向きな表現に変えたい

と思います。

○**渡部委員** 14ページ目の問37で、子育て支援サービスの5つについて質問があり、20ページの間63で、また子育て支援サービスの質問があるのですが、14ページのほうは細かく書いてあって、20、21ページでは、例えば「保育園や幼稚園の園庭等の解放」とか、「児童館」というように、まとめて書いてあります。この2つの設問は同じことについて聞いていますが、分けて聞く必要があるのですか。また、細かく分けたときとまとめて聞いたときでは回答が変わってくるのではないかと思ったのですが、どうでしょうか。

○**堀田子育て支援課長** 14ページ目の問37は、子育てひろばについての設問なので、かなり細かく聞いています。20ページの間63は、全体的なことを聞いており、細かく書くとボリュームが大きくなり過ぎるため、まとめています。

○**小川委員** 15ページ目の小学校入学後の放課後の過ごし方について、問39で土曜日、日曜・祝日などの質問はあるのですが、朝のニーズも採っていただければと思います。というのは、私どもの保育園のすぐ目の前に学童があるのですが、学童が開くのは8時半で、8時過ぎから子どもたちが集まってきて、学童の敷地内で20～30分待っている状況があるからです。また、現在保育園の保育士が足りない中で、保育士の子どもが小学校に入学する時に、「8時半からの学童では働き続けられないから非常勤になりたい。」という保育士からの声もあります。このようなことから、学童の朝のニーズの確認も入れていただければと思いました。

○**池田放課後支援課長** 今のご意見について、放課後支援課では、現在実態調査的な形で小学校の保護者と児童を対象にニーズ調査を行っております。その中で、開設時間に関連する項目も設けていますので、一定程度のニーズは把握できると考えております。

○**秋山委員** 20ページ目の虐待の設問について、区として虐待は良くないという認識を示さないといけないと思います。特に「しつけのためなら積極的にすべきである」という選択肢について、実際にそういう人もいるかもしれませんが、こういう公的なアンケートでは、「しつけのためといえども体罰はよろしくない。だけれども、凶らずもしてしまったことがある」というニュアンスの質問にするべきだと思います。それでは結果が正しく出ないということであれば仕方がないとも思いますが、私はこれにはどうしても納得できません。

○**堀田子育て支援課長** おっしゃるとおりだと思いますが、アンケートとして採るときに、バイアスがかかったような選択肢になると実態を正確につかめないという心配がありますので、選択肢はあくまで両極端と真ん中という形にし、実態を把握したいと考えています。

○**諏訪委員** 私は両方のご意見とも分かります。そこで考えたのですが、問61の選択肢の順番を変えてはどうでしょうか。「決してすべきではない」を1番目に持ってくれば、秋山委員がおっしゃることも強く訴え掛けられて、印象が違うのではないかと思います。

○**堀田子育て支援課長** 順番を入れ替えることも含めて、少し考えさせていただきたいと思います。

○**大浦委員** そもそも、しつけと体罰は違うのです。しつけは子どもが心地よく覚えるもので、体罰は親の感情に基づくものです。ですから、児童相談所としては、しつけのために子どもに体罰を加えるという書き方自体、おかしいと思います。これは暴力を振るう親の言い分であって、それを公文書に書くのは間違っています。例えば、「しつけに対して不適切な対応をしていることがありますか」といった書き方にしてはどうでしょ

うか。

○堀田子育て支援課長 まさに所長がおっしゃったとおりだと思いますので、表現を考えさせていただきます。

○榎田会長 皆様方のご意見を踏まえて、設問や回答の順番等をもう一回考えていただくということをお願いしたいと思います。他にはよろしいですか。なければ、私からいいでしょうか。

6ページ目の問15の、こどもとのコミュニケーションの質問について、小学生向け調査票のほうには、こどもと一緒に入浴するという選択肢が入っているのですが、こちらには無いので、入れたほうがいいと思います。それから、先ほど「習い事」というご意見がありましたが、「勉強する」ということもコミュニケーションとして考えている家庭もあると思うので、その2点についてご検討いただきたいと思います。

○堀田子育て支援課長 今のご指摘の部分についても検討させていただきます。

○榎田会長 もう1つ、18ページ目の問51の選択肢について、幼稚園と保育園は入っていますが、こども園も入れる必要があると思います。

○堀田子育て支援課長 追加します。

○榎田会長 他に何かございませんか。

○平間委員 問17について、幼稚園に落ちてしまって、1年待って区立に入れたいと考えて利用していないという方が結構いらっしゃるのですが、その場合はどれを選んだらいいのでしょうか。「その他」に書けばいいのですか。

次に問41について、以前、私が出した意見を踏まえて、産後の働き方の項目を入れてくださって、ありがとうございます。ただ、「資格取得やスキルアップ支援」等を受ける時に、いま自分で見ているこどもをどうするかが問題であるのに、そこの記載が何もありません。「支援」という中にそこも入っているのですか。それとも「保育所の定員を増設」等に入るのでしょうか。こどもがいるという前提で、再就職の準備をするというときに、この選択肢では少し足りないように思うので、ご検討いただければと思います。

○堀田子育て支援課長 問17については、「幼稚園に入りたかったが入れなかった」という選択肢を追加したいと思います。問41についての、お子さんの預かり先というご意見については、ここは再就職そのものについての設問なので、こういう選択肢にしました。ご意見の点については、持ち帰って検討させていただきたいと思います。

○石塚委員 17ページ目の問45、子育て環境全般についての情報をどういう方法で受け取っていますか、という設問の選択肢について、新生児訪問や母親学級でも情報を教えていますので、そういう項目も入れていただければと思います。

○榎田会長 選択肢9に「区の職員」、10に「家族や友人からの情報」とありますが、ここにもう1つ項目を増やしたほうがいいですか。それとも、区の職員の中に含まれるという考え方にしますか。

○堀田子育て支援課長 区のサービスを経由して、情報を得ているということが分かるような表現を考えたいと思います。

○榎田会長 他にはよろしいでしょうか。たくさんご意見を頂いたので、それぞれについて検討していただき、作成していくということにしたいと思います。

次に、小学生用調査票の説明をお願いします。

○堀田子育て支援課長 小学生用の調査票についても、まず、前回の5年前の調査から大きく変わった点について説明します。「参考」の2ページ目をご覧ください。

1点目ですが、こども・子育て会議の意見を踏まえて質問を追加しました。就学前児童用調査票と同様、地域のつながりの状況等の質問を加えています。2点目は、こどもの基本的な日常生活の状況に関する質問として、基本的な生活習慣や食生活等についての質問を加えました。3点目は、今後の事業のあり方の検討に使えるように、現状の事業の不満や今後の希望の具体的な内容に関する質問を加えました。4点目は、子育ての不安感に関する質問を追加しました。5点目は、次世代の関係で、仕事と育児の両立、ワーク・ライフ・バランスの質問を加えました。6点目は、就学前用調査票と同様、しつけと体罰の質問を追加しました。以上が大きな変更点です。

資料4をご覧ください。小学生用の調査票です。前回の調査の時は28問でしたが、今回は対象の学年を小学校6年生までに広げたこともあり、全部で43問で、前回よりも15問増えています。対象は小学生のお子さんのいる保護者の方で、3,400人を無作為で抽出して、郵送で送付・回収します。回収率は、前は69%でした。今回も同様の回収率になると見込んでいます。

2ページ目をご覧ください。大きな1番は、お子さんの家庭の状況、保護者の就労の状況です。問1はお子さんの学年、問2はお住まいの地区、問3は回答されている方がどなたか、問4は同居している家族の状況、問5は、主に子育てをしている人です。ここは未就学児用調査票と同様です。

3ページ目、問6は母親と父親の就労状況です。小学生用調査票では保育園の需要の調査は必要ないので、フルタイムの転職希望や今後の就労意向の設問は省略して、簡略化しています。問7は、小学校に入る前後で母親の働き方に変化があったかどうかという質問です。

4ページ目、問8は、仕事を辞めたり転職したりしたことがある方について、その理由を聞いています。大きな2番は、お子さんの日常生活、基本的な生活習慣等についてです。問16までは、未就学児用調査票の質問と同様です。問17は、質問は未就学児用調査票と同様ですが、選択肢は小学生用調査票に若干変えています。

6ページ目、大きな3番は、きッズクラブや学童の利用についてです。問18は、放課後をどこで過ごしているかという質問です。放課後の居場所の実態の把握が目的ですので、先ほどの未就学児用調査票のようにきッズクラブや学童だけではなく、「自宅」「習い事」も選択肢に加えています。問19は、問18で「児童館・児童会館」に○を付けなかった方について、使わない理由を聞いて、今後の児童館のあり方を考える際の参考にしたいと思っています。

7ページ目、問20は、宛名のお子さんの放課後の過ごし方の希望についての調査です。ここも居場所の質問なので、「習い事」等も入れています。問21、22は、きッズや学童の、土曜日、日曜・終日、長期休暇中の利用の希望の有無とその理由です。

8ページ目、問23は、児童館・児童会館を使いたい理由です。問24は、こどもが放課後を過ごす場所として重視している点です。大きな4番は、子育て環境についてです。問25は、こどもに関する施策の情報をどのように受け取っているか、そして、今後どのように受け取りたいか、を聞いています。問26は、仕事と家庭生活の時間についての希望と現実の状況です。

9ページ目、問27、28は子育てと仕事の両立、ワーク・ライフ・バランスについての質問です。問29は子育てをする上で相談できる人がいるかどうか、という質問です。問30と10ページ目の問31は、子育てについての不安感や負担感の状況と具体的な内容を聞いています。

10ページ目、問32は小学校に入学した時に心配だったことです。問33は、近所や地域の人との付き合いの程度です。

11ページ目、問34は、日頃お子さんを預かってもらえる人がいるかどうかです。ショートステイのニーズや、孤立した子育ての状況についての調査になります。問35～37は、地域のつながりに関する質問です。問38は、虐待の通告先を知っているかどうかという

質問です。問39、40はしつけと体罰の質問です。ここについては、先ほどの未就学児用調査票と同様の修正をさせていただきます。問41は、子育てしやすいまちだと思いかという質問です。12ページ目の問42で、「思わない」場合の理由を聞いています。

12ページ目、問43は子育て支援についての希望です。具体的にどのようなものが必要か、という部分を今回追加しました。

- 榎田会長 未就学児用の調査票と同じ設問については、先ほどの修正を活かすことで、それ以外の部分で、ご質問・ご意見はありませんか。
- 田村委員 4ページ目の問12などで、例えば「食事をされていますか」とありますが、「……していますか」という表現になっているところもあるので、統一したほうが良いように感じました。  
次に、10ページ目の問31について、選択肢の12に「こどもの身体」とありますが、「身体」を「心身」としたほうがより広く捉えられてより良いのではないかと思います。
- 堀田子育て支援課長 1点目の文末の表記は、もう一回精査させていただきます。2点目の、問31の「身体」を「心身」とするというご意見については、そのように修正したいと思います。
- 塩崎委員 5ページ目の問15、16について、設問の中に「お子さんの相手をしている時間」とあるのですが、「相手をする」というのは、具体的にどういうことですか。例えば問17を想定しているのですか。  
次に、8ページ目の問25について、「区の職員」から情報を受け取るというのは、具体的にどんなことがあるのですか。
- 堀田子育て支援課長 問15、16の「相手をしている」というのは、一般的な育児のことを指しています。具体的には、問17に書いてあるようなこともあるかと思いますが、広く一般的に、いわゆる育児というイメージでこの設問は作りました。他の表現のほうが分かりやすいのではないかとすることがあれば、ご意見を頂ければと思います。  
問25の「区の職員」からの情報については、保健所の保健師、窓口の職員等をイメージしています。
- 榎田会長 「相手をしている」に代わる、いい表現はないでしょうか。私も最初に見たときに、伝わりにくい感じがしたのですが、ほかの言葉が思い付きませんでした。
- 諏訪委員 「一緒に活動している」とすれば、問17にもつながるのではないのでしょうか。
- 堀田子育て支援課長 今頂いたご意見も踏まえて、もう一度考えさせていただきます。
- 藤巻副会長 全体的に父親・母親という表現になっているのですが、2ページの間5では「父母ともに」とあるので、「父親・母親ともに」という表現のほうが良いのではないかと思います。  
次に、10ページ目の問32の⑩に、「こどもを世話してくれる人」とありますが、「こどもの世話をしてくれる人」のほうが良いのではないかと思います。
- 杉山委員 就学前児童用調査票の中にもあったのですが、「すべての方におうかがいします」となっているところと、「……うかがいます」となっているところがあるので、統一したほうが良いと思います。  
また、選択肢を選ぶときに、問11では「それぞれ、あてはまる番号1つに○」と書かれていますが、問12では「それぞれ、もっともあてはまる番号」、問32では「①～⑩のそれぞれ1つに○」と書き方が違うので、統一したほうが良いのではないかと思います。

○堀田子育て支援課長 細かい文言については、最終的に全部を読み直して、齟齬がないか確認する予定です。

○佐藤委員 5ページ目の問17、一緒にすることの選択肢について、もう少し今の子どもたちに即した内容にしたほうがいいのではないかと思います。例えば、12番の「庭の手入れや畑仕事」は、庭や畑がある家庭ばかりではないので、「植物を育てる」などの表現に、13番の「ガラスふき」は、より一般的と思われる「部屋の掃除」といった表現にしてはどうでしょうか。

○堀田子育て支援課長 検討させていただきます。

○秋山委員 6ページ目の問18に、「※児童館にある学童クラブを利用している場合は「6」にご回答ください」とありますが、平日の学童クラブが残っている児童館は何カ所あるのですか。今はほとんどきっずクラブに移行して、あまり残ってないのではないのでしょうか。そうであれば、人数は少ないと思うので、問19に誘導せずに問20に飛んでいいのではないかと思います。

○池田放課後支援課長 児童館・児童会館は現在19館ございますが、そのうち、学童クラブがあるのは10館です。

○秋山委員 まだそんなに残っているのですか。

○池田放課後支援課長 はい。

○榎田会長 他にはいかがでしょうか。なければ、小学生向け調査票については、意見が出たところを検討していただくということをお願いしたいと思います。

次に、中高生世代用調査票について、説明をお願いします。

○堀田子育て支援課長 資料5をご覧ください。中高生世代は、今回、初めての調査となります。区内にお住まいの中学生、高校生世代の方、合わせて7,400人を抽出して、郵送で送付・回収をします。回収率は30%程度を見込んでいます。

表紙の「ご回答の前にお読みください」の下から3つ目のポツに、「お答えになりたくない質問には無回答のまま、次の質問にお進みください」と書いていますが、これは、中高生世代用調査票には性別の質問を残しているため、答えたくないという方がいる可能性がありますので、このような記載をしました。

2ページ目をご覧ください。大きな1番は本人の状況です。問1は性別です。先ほどまでの調査票では性別の質問はカットしていたのですが、中高生世代用調査票については、例えば、親との関係等において男女で回答が別れてくるのではないかと想像して、性別の質問を残しました。答えたくない方については、答えなくていいと表紙に書くことで配慮をさせていただいたところです。問2は年齢です。問3は現在の状況です。問4はお住まいの地区です。問5は、同居している家族の状況です。

3ページ目、大きな2番は放課後の過ごし方です。学校に通っていない方は、ここは飛ばして大きな3番に進んでいただきます。問6は、部活動の参加の状況です。問7は、部活動に参加していない理由です。問8は、放課後はどこで過ごしているか、という居場所についての質問です。大きな3番は、普段の生活についてです。基本的な生活習慣や悩み、不安について聞いています。問9、10は、起きる時間と寝る時間です。問11は、朝食・夕食を誰と食べているかという質問で、孤食の状況の調査です。

4ページ目、問12は休日どこで過ごしているか、という居場所の質問です。問13～16は、内閣府で行った引きこもりの実態調査を参考に作りました。問13は、ふだんどのくらい外出しているか、です。ここで5～8を選択した方は、引きこもりの可能性がある方と考えられます。その場合に、問14「何歳からそのようになったか」、問15「何年くらいなっているのか」、問16「今の引きこもりのような状態になったきっかけ」を聞いて



ています。

5ページ目、問17は、安心できる場所です。問18は、学校でどのようなことを経験したかについて、ネガティブな部分も含めて聞いています。これと先ほどの引きこもりの状況とをクロスすることで、相関関係があるかどうかを調査したいと思っています。問19は悩みや不安の内容です。問20は、相談できる相手がいるかどうかという調査です。

6ページ目、問21は自己肯定感についての調査です。大きな4番は、将来のことや働くことについてです。問22は将来の夢、問23は将来についての不安、問24は不安の内容です。

7ページ目、問25は、仕事を選ぶ際に重要と思うことです。青少年の職業観の調査をしたいと考えております。大きな5番は、家庭や親子関係の調査です。問26、27は、父親との関係です。問28、29は母親との関係です。ここで性別による違いが出るのではないかと考え、冒頭で性別を聞いています。

8ページ目、問30は家庭の状況の各項目にどの程度当てはまるかという質問です。大きな6番は、よく利用するメディアについてです。問31はメディアの利用状況です。

9ページ目、問32はスマホを利用する目的です。問33は、不適切なサイトについて説明を受けたことがあるかという質問です。大きな7番は、ボランティアや地域との関わりについてです。問34は、ボランティア活動の経験の有無です。問35はボランティアの参加意向です。問36は、現在、地域の中で所属している活動についての質問です。

10ページ目、大きな8番は児童館・児童会館についてです。児童館のあり方検討の参考にしたいと思っています。問37は、児童館・児童会館の利用の有無です。問38は利用していた、または利用したことがない理由です。問39は、自由記述で区に望むことを書いていただきます。

○榎田会長 中高生世代用調査票について、ご質問、ご意見はございませんか。

○平間委員 これは中学校1年生にも配付される可能性があるのですが、「媒体」「福利厚生」等の難しい文言には振り仮名があったほうがいいのではないかと思います。問3の現在の状況の選択肢について、例えば、保健室登校はできているとか、不登校ぎみだけれど少しは行けているという場合は、どこを選べばいいのでしょうか。問18について、7番に「学校の先生との関係がうまくいかなかった」とあるのですが、いじめとまではいかない友達とのトラブルを経験する子ども多いのではないかと思います。そこも選択肢にあったほうが、より細かく見ることができるのではないかと思います。

○堀田子育て支援課長 漢字については、ご指摘のとおり、若干難しいところもありますので考慮させていただきたいと思っております。問3の保健室登校やフリースクール等については、選択肢として設けるほど人数的には多くないと思われるので、「その他」のところに、書ける範囲で書いていただければと考えています。

○平間委員 「特に何もしていない」には不登校も含まれるのですか。

○堀田子育て支援課長 ここは不登校というよりは、例えば、中学校を卒業してから高校にも行かず、アルバイトもせず、家で過ごしているような状態をイメージしています。

問18については、いじめに関しては教育委員会でかなり詳細を把握しているので、ここでは「いじめ」という選択肢は外しています。ただ、いじめ以外の友達とのトラブルについては、「確かにそれも多いだろう。」と思っておりますので、表現を工夫するなど検討したいと思います。

○榎田会長 他にはいかがでしょうか。

○田浦委員 問13で、引きこもりの~~事~~傾向があるかどうかを確認したいということですが、自宅で仕事をしているためにほとんど家から出ない人もいます。5～8に○を付けると、問14以降に回答するわけですが、問16にはものすごくネガティブな選択肢し

かないので、問13のところに、「自宅で仕事をしているためあまり外出しない」といった項目があってもいいのではないかと思います。

それと、問16の8番に「妊娠した」とありますが、この項目が適切なのか、少し気になりました。

○堀田子育て支援課長 1点目のご意見は、自宅で仕事をしている場合、問13の選択肢の中に、「自宅で仕事をしているから、ふだんはあまり外には出ない」という選択肢があれば、いわゆる引きこもりではないと分かるので、問14～16に回答する必要はなくなり、問17に進めるという趣旨ですか。

○田浦委員 そうです。

○堀田子育て支援課長 分かりました。工夫したいと思います。

問16の「妊娠した、という選択肢が適切なのか。」というご意見について、問13～16は内閣府の引きこもりの調査の質問を横引きして、選択肢もそのまま載せました。「妊娠した」という設問内容等については、載せるかどうか再度検討いたします。

○田村委員 問16の1に「不登校」とあるのですが、これは本人が答えるので、2や3のように、「学校に行けなくなった」といった表現にしたほうがいいのではないのでしょうか。

○堀田子育て支援課長 そのように文言を修正します。

○秋山委員 先ほどまでの調査票にはしつけと体罰が入っていますが、中高生世代用調査票こそ、本人が答えられるので、その質問を入れるべきだと思います。こどもがこどもとしてどのように過ごしていくのかは、中学生、高校生になれば当然答えられるので、不適切な養育を受けたことがあるか、という視点は絶対に必要だと思います。

○堀田子育て支援課長 8ページ目の問30「あなたの家庭の状況」の選択肢の⑩に「親から虐待を受けたことがある」とありますが、これでは不足でしょうか。

○秋山委員 問30で一緒くたに聞くのではなく、先ほどまでの調査票と同じように、独立した質問としてあるべきだと私は思います。

○堀田子育て支援課長 どのような形で載せるか、検討させていただきたいと思います。

○大浦委員 年齢的に小さい頃から虐待を受けていると、この年頃から逆転現象が起きることがあるので、こどもが親に暴力を振るったことがあるかどうかについても聞いていただければと思います。

○榎田会長 今回の点についても検討をお願いします。

○秋山委員 調査票に記載のある「別添のガイド」とはどのようなものなのですか。分かる範囲でいいので教えてください。

○堀田子育て支援課長 ガイドは現在校正中で、今日お示しできませんでした。内容は、ここに載っている区の教育・保育サービス等について、どんなものかが分かるように示したものです。保護者用調査票に別添で同封する予定です。

○榎田会長 他にはよろしいですか。

なければ、議題3に進ませていただきます。「平成31年度江東区こども・子育て支援事業計画の取組予定について」の説明を、事務局よりお願いします。

○堀田子育て支援課長 資料6をご覧ください。現在、来年度の予算編成の最中であるため、これはまだ予算要求前の段階ということをご了解いただきたいと思います。地域子ども・子育て支援事業で、来年度レベルアップを検討しているものは、大きく3点あります。

1つ目は、「利用者支援事業」です。現在、区内5カ所に子ども家庭支援センターがありますが、センターから距離が遠くて利用しづらい地域がございます。そのため、平成34年4月の開設に向けて、住吉地区の現在児童会館がある所に、新たに子ども家庭支援センターと「こどもとしょかん」の合築施設を整備することで、現在事務的な作業を進めています。

2つ目は、「地域子育て支援拠点事業・一時預かり事業」です。これらの事業は5カ所の子ども家庭支援センターで実施していますが、センターから遠くて利用しづらい地域があるということと、リフレッシュひととき保育の予約が、すぐにいっぱいになってしまって利用できない人が多い、ということで「取組予定」の2つ目のポツにあるとおり、大島四丁目学童クラブの跡地を大島子ども家庭支援センターとして整備して、子育てひろばの機能の拡充と、喫緊の課題であるリフレッシュひととき保育の定員増を図ろうと考えています。具体的には、現在の大島の定員は8名ですが、それを16名にする予定です。

3つ目は、「子育て援助活動支援事業」、つまりファミリー・サポートです。この事業については、利用会員の方に対して協力会員が少なく、協力会員の数が伸び悩んでいるのが現状です。取組予定としては、現在小学校3年生までの利用対象を6年生までに広げることと、協力会員の増に向けて、例えば、PTA等の働き掛けをするなどして、周知に取り組んでいきたいと考えております。

○榎田会長 この件に関してご質問等はありませんか。

○諏訪委員 昨年度頂いた、どれだけ子育て支援施設から離れているとか、どれだけの人数がいる等を地域別に示した資料では、住吉地区はそれほど重要視されていなかったと思うのですが、なぜ住吉地区の充実を先に進めるのですか。

それから、ファミリー・サポートについて、小学校3年生までの利用対象でも協力会員が不足しているのに、対象を小学校6年生までに広げると、ますます手が届かなくなります。それをやる前に、まず協力会員の増員をすべきです。周知方法や登録の仕方を工夫するとか、平日夜に説明会をするとか、そういったことをまずやって、ある程度協力会員が増えてから、利用会員を増やすのが筋ではないでしょうか。

○堀田子育て支援課長 住吉地区は、子ども家庭支援センターの空白エリアになっています。私どもとしては、区内のどこでも1km圏内くらいの所に子ども家庭支援センターがあるような形でできればと思っているのですが、住吉地区はどの子ども家庭支援センターからも遠いのです。そのため、住吉地区に子ども家庭支援センターを整備しようということで、現在動いています。

次に、ファミリー・サポートについては、協力会員がなかなか確保できないことが大きな問題と考えており、先ほど話したように、PTAに働き掛けたり、ファミリー・サポートを委託している社会福祉協議会と今後の取組方について考えていきたいと思っております。また、対象を6年生までとすることについては、現在23区のうち20区が6年生までやっていることと、3年生まででは、例えば4年生と幼稚園の兄弟等で、上のお子さんだけ利用できないという現状があることから、6年生まで利用できる体制をつくり、同時並行で協力会員の数を増やしていく形で進めたいと考えております。

○諏訪委員 私の家からは、一番近い子ども家庭支援センターでも3kmあります。

先ほど、「ファミリー・サポートについては、PTAに働き掛ける。」という説明がありましたが、学校で夕方に説明会をしていただくといったことも含めて検討していたけるとありがたいです。

○榎田会長 ご検討をよろしくお願いいたします。他にはございませんか。なければ、議題3は以上で終了いたします。

最後に、「その他」として事務局から何かございますか。

○堀田子育て支援課長 今後の予定ですが、今日頂いたご意見を踏まえて調査票を修正し、委員の皆様を確認をしていただいた上で、9月に発送します。その後集計を行い、12月の第4回子ども・子育て会議から3回くらいかけて、アンケートの集計結果の報告と、来年度の計画作成に向けての課題抽出を行いたいと思っております。

次回の開催日時については、今後調整し、決まりましたらご連絡いたします。

もう1点、昨年の子ども・子育て会議にて、「11月の子育てメッセで、子ども・子育て会議の活動内容を紹介してはどうか。」というご提案を頂きました。子育てメッセの事務局に相談したところ、「シンポジウムのような形のもの難しいけれども、活動を紹介したパネルを展示するといった形であれば、パネル展示のブースはまだ空いている。」とのことでした。そこで、皆さんにお諮りしたいのですが、11月11日の子育てメッセの当日に、文化センター2階のパネル展示会場に1ブースを借りて、この子ども・子育て会議の活動の内容をパネル展示するということについて、いかがでしょうか。

○榎田会長 まず、今後の手順から確認したいと思います。8月中に修正したものをお示ししたかどうかということですが、それはメールですか。

○堀田子育て支援課長 はい。メールにて送らせていただきます。

○榎田会長 そういことですので、お目通しいただくようお願いします。

次に、11月11日の子育てメッセに、子ども・子育て会議の活動や役割等を紹介するパネル展示をしてはどうかというご提案について、ご意見を頂きたいと思えます。

○秋山委員 メッセへの参加は、昨年、私が提案しました。できればシンポジウム等を行いたかったのですが、パネル展示という形でも、皆さんに知っていただくということは大変良いことだと思います。ただ残念ながら、11月11日は私の地区で江東区の防災訓練があるため、午前中は伺えません。その点をご容赦いただければ、午後以降は積極的に参加したいと思います。

○榎田会長 それまで会議はありませんので、事務局をお願いしてパネルの案を考えていただき、皆様を確認やご意見を頂きながら作っていくこととなりますが、それでよろしいでしょうか。

(異議なし)

○榎田会長 では、皆様の賛同をいただいたことで、進めていただきたいと思います。

○堀田子育て支援課長 それでは案を作り次第、また皆様に送らせていただきますので、よろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

○榎田会長 委員の皆様から「その他」として何かございませんか。

○秋山委員 ゆあちゃんの事件で、小池知事は特別に条例を作るようなことをおっしゃっています。アンケートを採ることも大事ですが、我々が次期計画に対してどういうスタンスで臨むかなど、いろいろな形で思っていく必要があると思えます。事務局には、都の状況、他区の状況も広く教えていただけるように、情報収集をよろしくお願いいたします。

○榎田会長 他にはいかがでしょうか。

それでは、しばらく次回開催までの期間が空きますが、何かありましたら事務局のほうにご連絡を頂ければと思います。本日の会議は以上で終了します。